

平成 29 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	9	講習名	【選択】英語教育改善のための理論と実践				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
馬本 勉 R. スチュワート 河村 和也	庄原 キャンパス	6 時間	小学校教諭、及び中学校・ 高等学校英語科教諭	30 人	講義 演習	筆記	
開催日	8 月 7 日 (月)		予備日	8 月 10 日 (木)			
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業を改善する視点と方法を理解し、具体的な実践をイメージできる。 ・アクティブ・ラーニング型の授業方法を理解し、実践できる。 							
【講習の概要】 本講習では、小学校外国語活動および中学校・高等学校英語科授業の改善をめざし、理論と実践のヒントを提供する。講義とワークショップを組み合わせ、自らの授業実践を振り返りながら、新しい授業創りへの道筋を探っていく。参加者自身の英語力向上にも資するよう、具体的な教材を用いた「英語学習体験」の時間も設ける。							
【講習の内容】 講義 1：音声・文字指導のヒント (担当：河村 和也) 無意味な音の連続が意味をもった言語の音声になり、文字がほかの絵や図形と区別されるようになるのはなぜだろう。このことを理解したり体験したりすることは、学習者の「ことば」への気づきを促すきっかけともなろう。小学校に英語が導入され、音声や文字の指導について議論が交わされる今、あらためて音声と文字とは何か、問い直してみたい。							
講義 2：文法・語彙指導のヒント (担当：馬本 勉) 英語習得過程にある学習者 (の頭の中) の「文法」と「語彙」をいかに豊かにし、使えるようにするか、その方法の一つとして、フレーズを中心とした指導法 Lexical Approach について理解を深める。具体的な方法として、英英辞典の活用法や、ペアやグループでの学習活動を体験し、その応用を検討する。							
講義 3：コミュニケーション指導のヒント (担当：R. スチュワート) 音声や文字情報だけではなく、映像や文化的な情報を組み合わせながら、異文化間のコミュニケーションを深める方法を学ぶ。教師自身が様々なメディアから情報を収集する方法や、それを学習者に的確に伝える方法についても考えていく。さらに、英語で授業を進めるための表現を実践的に学ぶ時間を設ける。							
講義 4：ワークショップ「アクティブ・ラーニングで英語力をつける授業のヒント」 (担当：河村・馬本・スチュワート) このワークショップでは、「アクティブ・ラーニング型の英語授業」と「確かな英語力の養成」をどう両立させるかをテーマに、受講者の実践レポート、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う。県立広島大学庄原キャンパスの全学共通教育英語授業における実践の成果と課題も紹介しながら、議論を深めていきたい。							
【備考】 試験の際、講義テキストとノートの持ち込みを認める。							